
虚構

ミズキシホ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虚構

【Z-コード】

Z5342C

【作者名】

ミズキシホ

【あらすじ】

あなたの周りにもいるかも……。

その女はいつも見てくる。

ある日、

何気なく窓から外を見たら、
向かいのマンションのその女が目に入った。
私の部屋は8階。

その女の部屋は6階。

その女は、

窓辺に座り、

ただひたすら熱心に何かを見つめている。

視線の先を辿ると、

私の部屋の数階下のようだ。

女の視線からいつて、

4階か3階あたりだろうか。

何をそんなに熱心に見ているのだか、

と一瞬興味は湧いたが、

急いで出かけなければならぬことに気が付いて、
私は窓辺から離れた。

部屋を一步出た途端私は、

駅までの暑い道のりにウンザリし、

暑苦しい満員電車に辟易し、

会社では息をつく暇もないような雑事に追われて、
あの女のことなどすっかり忘れてしまっていた。

会社が引けて、

軽く一杯のつもりが、

何杯もになり、

深夜、

真つ暗な玄関へ入った瞬間、

私はその女のことを思い出した。

そして、

着替えもせずに、
なかば無意識で、
窓辺へと寄る。

あの女の部屋は……。

目を凝らして見ると、

女はそこにいた。

カーテンもせずに、
明かりもつけずに、
女はそこにいた。

だんだんと暗さに田が慣れてくる。

女は、

私が出かける前と同じ状態でそこに存在した。

私はひとり窓辺に立ち廻っていたのだらう。

女が立ち上がった。

女はカーテンを閉めた。

私はハツと我に返った。

なんだらう、あの女……。
まあ、他人事だし。
さて、眠らう……。

翌朝、

会社は休みだし、
昨夜は深酒をしたはずなのに、
朝早くに目が覚めた。

そして私の足は、
自然と窓辺へと向かっていた。

女は……。

女はそこにいた。

よし、今日は休みだし予定もないから、
じっくり女を観察してやうう。

椅子を持ってきて窓辺に腰を据える。

女は、

相変わらず、

一心に何かを見つめている。

女は、

時折立ち上がり、数分、私の視界から消えるほかは、
ずっと窓辺に座っている。

そして、見ている。

私は、そんな女を見ている。

女が立ち上がった。

そして、

カーテンを閉める。

ギョッとした。

もうそんな時間なのか。

時計を見ると、深夜の2時だ。

朝からこんな時間まで、
窓辺に座り込み、

ただ女を見ていたことになる。

バカバカしい……！

私は自嘲した。

眠ろう……。

明日は会社だ……。

翌朝。

目覚めたわたしは、
まっすぐ、

窓辺へと向かう。

女はすでにそこにいた。

あと5分、
あと1分……。

女になんの動きがあるわけでもなく、
女はただひたすら何かを見ているだけなのに、
私は女から目が離せない。

結局、

風邪を引いてしまって……、
と会社へ電話した。

そして私は、
その日も、

女がカーテンをしめるまで、
女を見続けた。

女がカーテンをしめると、
ハッと我に返る。

私は何をしているんだ一体……。
自己嫌悪に陥る。

そして、眠る……。

翌朝、

やはり、

私はまっすぐ窓辺へと向かう。

そして、

女を見続ける。

あれから何日たつたのだろう。

会社へは行っていない。
外へも出でていない。

電話やチャイムが鳴っていた気がする。
どうだらう。

気のせいかもしない。
きっと気のせいだ。

ボンヤリとそんなことを考へていたら、
いつもある一点だけを見ているその女が、

フツと、
顔を巡らし、

こちらの方に顔を向けた。

ちょっと視線をさ迷わせ、
私を見た。

女は明らかに私を見た。

そして、

ニヤリと笑った。

私は、

その女をいつも見ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5342c/>

虚構

2011年4月1日14時56分発行